

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目次

(1) 新設組織の概要	2
①新設組織の概要(名称, 入学定員(編入学定員), 収容定員, 所在地)	2
②新設組織の特色	2
(2) 人材需要の社会的な動向等	3
①新設組織で養成する人材の全国的, 地域的, 社会的動向の分析	3
②中長期的な入学対象人口の全国的, 地域的動向の分析	3
③新設組織の主な学生募集地域	4
④既設組織の定員充足の状況	5
(3) 学生確保の見通し	5
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	5
ア 既設組織における取組とその目標	5
イ 新設組織における取組とその目標	6
ウ 当該取組みの実績分析に基づく、新設組織での入学者の見込み数	6
②競合校の状況分析	
(立地条件, 養成人材, 教育内容と方法の類似性と定員充足状況)	7
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析, 優位性	7
イ 競合校の入学志願動向等	8
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等(競合校定員未充足の場合のみ)	9
エ 学生納付金等の金額設定の理由	10
③先行事例分析	10
④学生確保に関するアンケート調査	10
⑤人材需要に関するアンケート調査等	14
(4) 新設組織の定員設定の理由	15

## (1) 新設組織の概要

### ①新設組織の概要 (名称, 入学定員 (編入学定員), 収容定員, 所在地)

名 称：東京医科大学大学院看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)

入学定員：6名 収容定員：12名

所 在 地：〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1

### ②新設組織の特色

看護学研究科の設置の基礎となる看護学科は2013年開設し、この間一貫して、看護学を基盤に自ら考え、行動し、社会を切り拓く看護専門職を養成することを目指し、アクティブラーニングを積極的に取り入れた先駆的な教育技法を用い、3つの附属病院と連携して教育を行ってきた。本学科の入学志願者の多くは建学の精神「自主自学」に基づく教育に動機づけられ志願してきており、入学後は人間の尊厳を守る力、科学的に探究し表現する力、看護の対象を理解し実践する力、人や社会と関係を築く力、多職種と連携する力、プロフェッショナリズムに基づき責任を果たす力を培う教育に努めてきた。

設置する看護学研究科の教育内容の特徴として3点があげられる。

- ① 特定機能病院を含む付属病院と連携し、最先端の医療に触れながら、実践的な教育を展開できる。
- ② 本学ではアクティブラーニングの一つとして、近年、注目が高まっているシミュレーション教育を、先駆的に看護学教育へ導入してきた実績を有する。大学院ではシミュレーション教育の手法や教材を学生自身が活用し、自ら臨地の課題を再現した中での課題解決の検討や技術の向上、教育方法の獲得に取り組む。
- ③ eラーニングシステムを積極的に教材や資料の提供、学生の提出物管理、授業中のディスカッションなどに活用し、効果的なアクティブラーニングの一助とする。

加え、社会人（就業看護師）が通学の対象と出来る大学院として、昼夜制で通学至便の良い新宿にキャンパスを持つことは、大きな特色・利点である。

### ○養成する人材像

- ・高度な看護実践能力および基礎的な教育研究能力を備え、実践現場から看護の質向上に貢献する人材
- ・将来教育研究者として看護学の発展に貢献できる人材

## (2) 人材需要の社会的な動向等

### ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

医療や介護の需要が増大する中、効率的かつ質の高い医療提供体制および地域包括ケアシステムの構築と、それらが十分機能するためにコアとなる人材の養成は喫緊の課題である。加えて、女性のライフコースの変化、独居世帯の増加、貧困、コロナ禍や度重なる自然災害に起因する様々な問題など社会の変化は目まぐるしく、人々の健康にも様々な影響をもたらしている。それらは更に、健康や医療に対する多様で複雑なニーズを生じさせている。このような複雑に変動する社会の中で、幅広い視野と高い倫理観をもって人々のケアニーズを見出し、適切に応え、健康を支えていくために、看護学の専門的な知識や技術に基づく高度な実践能力を備えた高度専門職業人が求められている。

また、看護の場に生じているあらゆる現象・課題を捉え科学的に探究していくために、研究に関する専門的知識、手法を用いてエビデンスを創出すると共に、それを実践現場に還元し看護の質向上を主導する看護職が求められている。

一方、看護系大学の数は増加の一途を辿り、2023年度には283大学、299課程に達し、深刻な教員不足をもたらしている。教育の質保証において教員の質的・量的充実は重要な要素であり、実践の科学である看護学においては、優れた看護実践能力、研究能力を基盤に、幅広い視野で看護の果たすべき役割や既存の枠組みを超えた新たな看護のあり方を創造でき、看護基礎教育や継続教育の場で次世代の育成ができる教育力を備えた看護職が求められている。

### ②中長期的な入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

直近、令和4年に公表された厚生労働省、「令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」（資料1）によれば、令和2年末、就業看護師は、128万人で、平成30年と比較して5.1%増加している。過去、2年ごとの調査でも逡増しており、10年間で32.8万人、34%も増加している。

人口10万対就業看護師数も、東京は、全国の平均が1015.6人であるのに対して、東京、854.6名、埼玉736.9名、千葉770.0名、神奈川791.8名、茨城820.5名と軒並み低い数値となっている。これは、首都圏への人口集中が叫ばれ、多くの医療機関を配する一都4県が需要に対して、供給が追い付いていないことを明確に示している。

また、就業看護師の年齢階級別年次推移についても、ほぼ平均的に逡増しており、40～44歳が一番多く、続いて25歳～29歳、45～49歳、35歳～39歳の分布の順で多く見て取れる。

上記は、中長期的に本学看護学研究科の入学対象である就学看護師の今後の増加を明確に示している。

看護系大学院の増加も示されているが、(一社)日本看護系大学協議会 2023年度会員校(大学院一覧)(資料2)から、看護学系大学院修士課程を設置する大学は、東京都では国

公立3校、私立18校、埼玉・千葉・神奈川・茨城4県でも国公立4校、私立17校と決して多くない。

加え、日本看護協会認定部作成の2023年度専門看護師教育機関・課程一覧（資料3）によれば、専門看護師を要請する大学院の認可課程は、14分野のうち、1分野でも認定を受けている大学院は、東京11校、4県13校と絞られてくる。本学看護学研究科で開設を予定する「がん看護」では東京6校、4県6校、「精神看護」では、東京7校、4県、「小児看護」東京7校、9校と限られている。

【資料1】「令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」

【資料2】（一社）日本看護系大学協議会 2023年度会員校（大学院一覧）

【資料3】2023年度専門看護師教育機関・課程一覧

### ③新設組織の主な学生募集地域

本学看護学研究科の設置の基礎となる医学科看護学科入学者は、比較的広域から学生を受け入れているが、（表1）の通り、一都三県の入学者は、令和5年度入試で全体入学者82名のうち、69名と77.5%。入学者を含む全体在学生においても、全体350名についても、303名と84.2%を占めている。

（表1）東京医科大学医学部看護学科

出身高等学校所在地都道府県別入学者数・在学者数（令和5年度）

	入学者	在学生	合計	構成比
茨城	1名	6名	7名	2.0%
埼玉	17名	36名	53名	15.1%
千葉	11名	26名	37名	10.6%
東京	32名	132名	164名	46.9%
神奈川	9名	40名	49名	14.0%
他都道府県	12名	28名	40名	11.4%
総計	82名	268名	350名	100%

また、本学看護学科は2013年に開学し、2017年3月に第1期生を送り出し、この2024年3月には第8期卒業生を送り出す。卒業生は、広く活躍の場を広げているが、主な就職先である本学附属の医療機関である東京医科大学病院（904床、東京都新宿区）、八王子医療センター（610床、東京都八王子市）、さらには、実習の受け入れ先である協力医療機関の多くが一都三県に集中している。これに本学のもう一つの附属病院である茨城医療センター（501床、茨城県阿見町）の在職看護師も大きな学生募集対象であるので、主な募集対

象を東京都、埼玉県、千葉県の一都三県に限定的とはなるが、茨城県を加えた4都県が主な学生の募集地域となる。

専門看護師コース学生の確保についても、専門看護師の受験要件の一つとなる「実務経験が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修であること」があることから、入学時には、「当該実務経験3年以上」が必要となる。本学では、附属病院や実習受け入れ病院の勤務看護師を対象として多く見込んでいるが、同窓会だけでも、看護学研究科の開設時には、専門看護師の募集対象となる「当該実務経験3年以上に成り得る者」は、開設を予定する令和7年度4月時点で、480名程度となる。

【資料】新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙1）

#### ④既設組織の定員充足の状況

本学看護学科の入学定員は80名であり、（表2）の通り、直近5年間の入学充足状況は、下記の通りであり、選考倍率も高く維持出来ている。

（表2）東京医科大学医学部看護学科 入学者推移（人）

年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
入学者	82名	84名	88名	86名	92名
充足率	1.03	1.06	1.10	1.08	1.15

【資料】既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）（別紙2）

### （3）学生確保の見通し

#### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

##### ア 既設組織における取組とその目標

本学では、学生募集・入試の主体となるアドミッションセンターを配している。設置の基礎である本学医学部看護学科の学生募集においても、高等学校訪問や各種説明会への参加、WEBオープンキャンパスは1万人を超える視聴があり、コロナ禍明け、本年実施したオープンキャンパスについても2日間で約1350名が来訪した。

入試出願、入学動向も資料の通りで、選考倍率は、直近3年間で平均332%となっている。

本学看護学科では、看護学研究科設置に向けて、

- 1) 第1次として、2021年8-9月に在學生、本学科卒業生、3つの附属病院看護職を対象に大学院進学に関する実態調査を行った。
- 2) 第2次最終として、直近、2023年12月～2024年2月に在學生、本学卒業生、保健医療機関の看護職として、本学附属保健医療機関及び本学実習受入病院の看護管理者・看

護職に対して、アンケートを実施した。

本学の設置する看護学研究科看護学専攻（修士課程）は、入学定員を6名と抑えた為、アドミッション・ポリシーと照らし、十分な質の良い学生が確保できるものとするが、看護学科在籍時から、進学目標として定めてもらうこと、高度実践看護師コース志望の学生には専門領域での実務経験が3年以上となった場合に入学を志望してもらう様、入学予備学生を定期的に確保していくことを目標として、志望調査、進学説明等を実施していく予定である。

【資料】既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙3）

#### イ 新設組織における取組とその目標

看護学研究科の認可承認後については、在校生、卒業生、附属病院、実習受け入れ施設への周知、説明会等の設定は徹底する。

加え、対外的に既出のアドミッションセンターと企画部広報社会連携室が活動の核として、広く、ホームページはじめ、一部媒体などを通して周知を徹底する。

こちらも目標として、育児・介護等で休職中の有資格者、在職中の施設での勤務看護師に、進学先として定めてもらうこと、また、就学環境を確保するため、施設長・看護管理者の理解を得ていくことを定め、進学説明会や個別アプローチを実施していく予定である。

#### ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

2021年に実施した第1次実態調査の結果、本学に看護学研究科開設を希望する者は、在学生(n=124)は74.6%、卒業生(n=80)は48.8%、看護職(n=1002)は35.6%であった。

理由としては、在学生・卒業生とも「母校で学びたい/母校に大学院があれば進学が身近なものになる」「将来の選択肢が増える」等が主要なものであり、「母校の発展を望む」も共通していた。

看護職では「スキルアップを目指しやすい/将来の選択肢となる」「専門性を高めたい」「東京医大の発展を望む」等が主要なものであった。卒業生に於いては現時点で最長で卒業後6年目であり、ある程度の実践経験を経て進学を希望する者がこれから増えてくるものと予想されることから、看護学科で修得した知識や技術を更に深化させるキャリア形成の場として、出身大学に進学先を早急に整備すべきことは必然である。また、看護職においては、調査時点で「進学を希望・検討している者」「条件が整えば進学したい」と考えている者は23.2%であり、今回の回答者だけでも230人以上にのぼる。2021年度より、本学科と附属の3つの病院の看護部とにおいて、看護研究連携を推進する組織的な活動を開始したが、個人やグループで看護研究指導を求める者、

看護研究の研修受講に応募する者は多く、ここからも看護職の研究に対する学習ニーズが高いことがうかがえる。

入学者見込み数については、既存組織における WEB オープンキャンパス、WEB 上のパンフレット配布、オンライン個別相談会などの取組に基づき、後述の④学生確保に関するアンケート調査の通り、十分確保出来ており、今後も入学定員 6 名の確保を確実なものとしていく。設置認可後、新設組織における活動を加えることにより、外部からの志願者をより多く確保し、選考倍率を引き上げ、良質な学生確保を目標とする。

## ②競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

### ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性

#### ○競合校の選定理由

（一社）日本看護系大学協議会 2023 年度会員校一覧（大学院）（資料 2）から、所在地が学生募集地域にあり、大学入試における偏差値も同程度かそれらに近い競合校として、東京医科大学医学部看護学科入試の併願校および卒業生の進学先の看護系研究科等 10 校を選定した（表 3）。

（表 3） 競合校の入試時期と学生納付金

大学院	入試時期	学生納付金（初年度）
北里大学大学院看護学研究科	9 月、2 月	830,000 円（看護学研究コース） 950,000 円（高度実践看護学コース）
順天堂大学大学院医療看護学研究科	9 月、1 月	825,000 円
聖路加国際大学大学院	9 月、3 月	1,350,000 円（修士論文コース） 1,500,000 円（高度実践看護学コース）
帝京大学大学院医療技術学研究科看護学専攻	11 月、3 月	1,040,400 円（自大学出身） 1,142,400 円（他大学出身）
東京医療保健大学大学院保健学研究科	9 月、1 月	1,584,500 円（プライマリ看護学領域・助産師コース以外） 1,634,500 円（プライマリ看護学領域のみ）
東京慈恵医科大学大学院医学系研究科看護学専攻	9 月	1,000,000 円
東京女子医科大学大学院看護学研究科	8 月、1 月	1,400,000 円（自大学出身） 1,500,000 円（他大学出身）
東邦大学大学院看護学研究科	9 月、2 月	1,100,000 円（CNS コース、実践助産学課程、高度実践公衆衛生看護学課程履修者） 900,000 円（CNS コース、実践助産学課

		程、高度実践公衆衛生看護学課程履修者以外)
日本赤十字看護大学大学院看護学研究科	8月、12月、 2月	1,904,500円
武蔵野大学大学院看護学研究科	9月、12月、 3月	1,372,000円

【資料2】(一社)日本看護系大学協議会 2023年度会員校一覧(大学院)

○競合校との比較分析

学生確保の優位性としては、

- 1) 東京都新宿区新宿としての立地
- 2) 設置の基礎となる看護学科と同敷地内であり、通学の至便が良好であること
- 3) 医学部医学科、医学研究科、附属病院との連携が可能であり、医学・医療福祉全体に係り学術的に、履修以外で開設されるセミナーや講演会など、学生が得られる受益が多いこと
- 4) 近年、注目が高まっているシミュレーション教育を、先駆的に看護学教育へ導入してきた実績を有していること
- 5) 組織に研究支援部研究支援課、研究推進センター、医学総合研究所を備え、研究支援研究支援体制が整っており、学生が研究継続を望んだ場合、環境下で研究継続が見込めること。
- 6) 設置の基礎となる看護学科が、看護学研究科の設置年度には第9期卒業生を輩出し、720名からなる同窓会を有していること
- 7) 学生確保のメインとなる附属病院のひとつである東京医科大学病院(東京都西新宿)には、1,150名の看護師が勤務しており、東京メトロで2駅、新宿駅を中心に徒歩での移動も可能であり、通学の至便が良いこと。
- 8) 他大学と比較して、入学定員を6名と少なく設定したことで、優秀な学生の選考を可能としていること

さらに、

- 1) 入試：入試は9月と1月を予定している。競合校の入試時期は、前期10校中7校が9月、2校が8月であった。後期は11～3月に分散していた。

本学が予定している時期は、他大学の入試も実施されており、受験生にとっては、受験の準備等を検討しやすいと考える。

- 2) 学生納付金：競合校の学生納付金は825,000～1,904,500円であった。本学の学生納付金1,300,000円は、11校中6番目の中間的な金額であり、妥当であると考えられる。
- 3) 就職支援：社会人として就労しながら大学院入学する者も多いことが予想される。看護

職として就職を希望する場合は、付属 3 病院への就職試験の案内が可能である。さらに他の保健医療機関への就職を希望する場合には、医学部看護学科での就職試支援の実績を活かして就職支援を行うことができる。

- 4) 取得できる資格：CNS コースがん看護学、小児看護学、精神看護学修了者は、それぞれ「がん看護専門看護師」「小児看護専門看護師」「精神看護専門看護師」認定審査受験資格が取得できる。  
などがあげられる。

#### イ 競合校の入学志願動向等

競合校のうち、令和 3～5 年度の志願者数と入学定員が公表されている看護学研究科等 4 校を選定した（表 2）。この 4 校の充足率は、0.33～1.08（令和 3 年度）、0.72～1（令和 4 年度）、0.78～1.36（令和 5 年度）の幅であり、全体では、0.88（令和 3 年度）、0.89（令和 4 年度）、1.02（令和 5 年度）であった。このことを鑑みると、入学定員充足率は高い状況であるとともに上昇傾向にあると言える。さらに 4 大学のうち、3 大学は附属病院が存在し、同病院に勤務する看護師の入学があるものと推測できる。

本学は、附属病院が東京都内と茨城県内合わせて 3 病院あり、同病院に勤務する看護師の入学が見込める。また、入学定員は 6 名と（表 4）で示す大学院よりも少ない。したがって、本学が検討する入学定員は充足でき得るものと考えられる。

（表 4）競合校の看護学研究科等志願者、入学者動向

	入学定員	令和 3 年度			令和 4 年度			令和 5 年度		
		志願者数	入学者数	充足率	志願者数	入学者数	充足率	志願者数	入学者数	充足率
北里大学大学院看護学研究科	15	3	2	0.33	15	14	0.93	20	18	1.2
聖路加国際大学大学院	32	51	34	1.06	33	23	0.72	32	25	0.78
東京医療保健大学大学院保健学研究科	25	28	27	1.08	26	25	1	35	34	1.36
日本赤十字看護大学大学院看護学研究科	32	33	28	0.88	50	31	0.97	44	29	0.91

#### ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

本学は、附属病院が東京都内と茨城県内合わせて 3 病院あり、同病院に勤務する看護師

の入学が見込める。また、入学定員は6名と表2で示す大学院よりも少ない。したがって、本学が検討する入学定員は充足でき得るものと考えられる。

#### エ 学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金について、競合校の学生納付金は825,000～1,904,500円であった。(6ページ表3参照) 本学の学生納付金1,300,000円は、11校中6番目の中間的な金額であり、妥当であるとする。

#### ③先行事例分析

特段、本学が先行事例として考えるものはない。

#### ④学生確保に関するアンケート調査

第一次で実施した2021年8-9月に在學生、本学科卒業生、3つの附属病院看護職を対象に行った大学院進学に関する実態調査によると、本学に看護学研究科開設を希望する者は、在學生(n=124)は74.6%、卒業生(n=80)は48.8%、看護職(n=1002)は35.6%であった。その理由としては、在學生・卒業生とも「母校で学びたい/母校に大学院があれば進学が身近なものになる」「将来の選択肢が増える」等が主要なものであり、「母校の発展を望む」も共通していた。看護職では「スキルアップを目指しやすい/将来の選択肢となる」「専門性を高めたい」「東京医大の発展を望む」等が主要なものであった。卒業生にすぐ進学したいと考える在學生は「進学を希望・検討している」が12.9%、「条件を整えば進学したい」が33.1%と半数弱を占める。卒業生においては現時点で最長で卒業後6年目であり、ある程度の実践経験を経て進学を希望する者がこれから増えてくると予想されることから、看護学科で修得した知識や技術を更に深化させるキャリア形成の場として、出身大学に進学先を早急に整備すべきことは必然である。また、看護職においては、調査時点で「進学を希望・検討している者」「条件を整えば進学したい」と考えている者は23.2%であり、今回の回答者だけでも230人以上にのぼる。

以下、第2次で実施した2024年1～4月に実施した大学院進学に関するアンケート集計に基づいて説明する。

##### ・調査対象と方法

- a.看護職：2024年1月に本学医学部看護学科及び開設予定の大学院で実習を依頼している・依頼予定の保健医療機関28か所の看護職へ郵送によりwebアンケートへの協力を依頼
- b.卒業生：2024年1月に本学医学部看護学科の卒業生で、連絡のつく者にメールでwebアンケートへの協力を依頼
- c.在學生：2024年4月に本学医学部看護学科の在學生に、メールでwebアンケートへの

協力を依頼

・回収結果：看護職 750 名、卒業生 50 名、在校生 188 名から回答を得た。

【看護職・卒業生への調査結果】

a.進学希望・優先者

「あなたは大学院への進学を希望しますか」と看護職と卒業生に質問したところ、「東京医科大学大学院看護学研究科（仮称）への進学を希望する」（以下、進学希望者）と回答したものが、看護職 13 名、卒業生 1 名、計 14 名であった。

「東京医科大学大学院看護学研究科（仮称）への進学を優先するが、他大学も検討する」（以下、優先者）と回答した者が、看護職 23 名、卒業生 6 名計 29 名であった。

（資料 4-1-II-1、資料 4-2-II-1）

b.うち「第一希望として受験」

前述した a のものと、「東京医科大学大学院看護学研究科（仮称）を受験したいと思いますか。」という問いに「第一希望として受験する」と回答したものをかけあわせたところ、進学希望者は看護職 11 名、卒業生 1 名、優先者は看護職 10 名、卒業生 5 名、計 15 名であった。

（資料 4-1-III-1、資料 4-2-III-1）

c.うち本研究科に合格した場合、入学者

b の結果と、「東京医科大学大学院看護学看護学研究科（修士課程）（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか」という質問に「入学する」と回答した結果をかけたところ、進学希望者は看護職 11 名、卒業生 1 名、計 12 名、優先者は看護職 3 名、卒業生 4 名、計 7 名であった。

（資料 4-1-III-2、資料 4-2-III-2）

d.入学者のうち、入学希望時期

c.の結果と、「東京医科大学大学院看護学看護学研究科（修士課程）（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望する時期をお答えください」と看護職と卒業生にした質問した結果をかけたところ、進学希望者は「2025 年 4 月」が看護職 3 名、卒業生 1 名、計 4 名、「2026 年 4 月」が看護職 2 名、計 2 名、2027 年度以降が看護職 6 名、計 6 名、優先者は「2025 年 4 月」が看護職 1 名、計 1 名、「2026 年 4 月」が看護職 2 名、卒業生 1 名、計 3 名、2027 年度以降が卒業生 3 名、計 3 名であった。

（資料 4-1-III-3、資料 4-2-III-3）

(表5) 本学研究所への進学および受験と入学希望 (看護職・卒業生)

内訳	進学希望			優先者		
	看護職	卒業生	計	看護職	卒業生	計
a.進学希望・優先	13	1	14	10	5	15
b.a×第一希望として受験	11	1	12	15	5	20
c.b×合格した場合、入学希望	11	1	12	3	4	7
d.c×入学希望時期						
2025年4月	3	1	4	1	0	1
2026年4月	2	0	2	2	1	3
2027年4月以降	6	0	6	0	3	3

【在学生への調査結果】

a.卒業後の進路

卒業後の進路として大学院を選択したものは、43名いた。

b.うち、国公立別

aで大学院を選択したもののうち、志望したい大学院のうち私立を選んだものは33名であった。

c.うち、興味のある学問分野

bで私立を選んだもののうち、大学院で学びたいと考えている興味のある学問分野として看護系大学院を選択したものが32名であった。

d.うち、第一希望として受験

cで看護系大学院を選択したもののうち、東京医科大学看護学研究受験を「第一希望として受験する」としたものが16名であった。

e. うち、入学者

dで第一希望として受験すると回答したもののうち、合格した場合「入学する」と回答したものが13名であった。13名の内訳は1年生8名、2年生1名、3年生2名、4年生2名であった。

(表6) 在学生への調査結果

内訳	n
a.大学院進学希望	43
b.a×私立	33
c.b×看護系大学院	32
d.c×第一希望として受験	16
e.d×入学	13
うち1年生	8
2年生	1
3年生	2
4年生	2

・定員充足の根拠

調査のまとめ

本学看護学研究所の進学希望者が看護職・卒業生合わせて14名、優先者が15名いた。進学希望者の中で第一希望として受験希望者が計12名、合格した場合入学する者が12名で、入学希望時期は開設時の2025年4月が4名、2年目の2026年4月が2名、2027年4月以降が6名だった。単年度当たり2名上の入学者が継続して見込まれる。これに優先者も加えると、単年度あたり5名以上の入学者が継続して見込まれる。

在学生は卒業後の進路として大学院を希望する者が43名、うち私立大学の大学院に進学希望者が33名、看護系大学への進学希望者が32名、第一希望として受験希望者16名、合格した場合入学する者が13名で、その内訳は1年生8名、2年生1名、3年生2名、4年生2名であった。

開設時の2025年4月の本学の入学希望者は看護職・卒業生と在学生を合わせて6名であった。2026年度以降も毎年4名以上の入学者が見込まれる。さらに優先者も加えると6名上の入学希望者が見込まれる。本学の入学定員は6名であるため、今後、入学希望者が本学大学院へ確実に入学してもらえるよう、大学院開設および社会人受け入れに関して附属病院や近隣の保健医療機関の看護職、在学生へのPRを強化して確実な入学者の確保に努めたい。

【資料4】 東京医科大学大学院看護学研究所 設置ニーズ調査集計結果

4-1 看護職対象

4-2 卒業生対象

4-3 在校生対象

【資料5】 大学院開設に関するニーズ調査 協力依頼

5-1 看護職対象

5-2 卒業生対象

5-3 在校生対象

5-4 資料

【資料 6】 東京医科大学大学院看護学研究科 設置ニーズ調査

6-1 看護職対象

6-2 卒業生対象

6-3 在校生対象

【資料 7】 設置ニーズ調査 配布先一覧（看護職対象）

### ⑤人材需要に関するアンケート調査等

東京医科大学大学院看護学研究科設置ニーズ調査（管理者向け）として、2023 年 12 月～2024 年 2 月の間、附属病院、実習受け入れ施設の施設長、看護管理者に対して、当該アンケートを実施した。

人材需要に関して、「東京医科大学大学院看護学研究科 設置ニーズ調査（管理者向け）」の結果を示す。

・ アンケート実施時期：2024 年 1 月

・ 調査対象と方法

本学医学部看護学科及び開設予定の大学院で実習を依頼している・依頼予定の保健医療機関 34 か所の看護管理者へ郵送により web アンケートへの協力を依頼

・ 回収結果：48 名から回答を得た。

・ 人材需要の根拠

「東京医科大学大学院看護学研究科（仮称）が養成する人材は、これからの社会にとって必要であると思われますか」という問いに、「とても必要である」23 名(47.9%)、「ある程度必要である」25 名(52.1%)との回答を得ており、本研究科開設の必要性は全ての管理者から同意を得られている。さらに本研究科修了生の採用希望も「採用したい」が 31 名(64.6%)であり、半数以上が採用を希望している。また、大学院修了者には「専門を生かした業務」「指導的役割」「教育的役割」が強く求められており、本研究科の目指す人材像とも合致するものであると考えられる。

【資料 8】 東京医科大学大学院看護学研究科 設置ニーズ調査集計結果（管理者対象）

【資料 9】 東京医科大学大学院看護学研究科 設置ニーズ調査 協力依頼（管理者対象）

【資料 10】 東京医科大学大学院看護学研究科 設置ニーズ調査（管理者対象）

【資料 11】 東京医科大学大学院看護学研究科 設置ニーズ調査送付先リスト（管理職対象）

#### (4) 新設組織の定員設定の理由

(一社)日本看護系大学協議会のデータベース委員会による「2021年度(2022年度)『看護系大学に関する実態調査』(資料12)によれば、看護系大学院修士課程の国立・公立・私立の入学定員の平均は16.8名、定員充足率は平均で59%であり、私立大学に限定した場合の入学定員の平均は14.8名、定員充足率は58.8%であった。

また、(一社)日本看護系大学協議会 2023年度会員校一覧(大学院)(資料2)から、全国の国立・公立・私立の看護系大学院修士課程の入学定員の設定について、個別に傾向を確認した。

特に、競合となる1都4県でも、附属病院をもつ医系大の定員設定にも幅があり、必ずしも医療系大学とは区分されない総合大学などでは、一部を除き、比較的入学定員を抑えている傾向もみられた。都内競合校でも30名を超える定員設定の大学院では、定員充足していない状況もうかがえた。

上記を踏まえ、本学では、10名程度の定員設定が検討されたが、学生選考に余地を残し、良質な学生の確保、良質な修了生の輩出を第一義とした。さらには、教員の業務量にも十分配慮が必要なことから、入学定員を6名と定めた。

【資料12】「2021年度(2022年度)『看護系大学に関する実態調査』